

予防接種と子どもの健康

お母さんが赤ちゃんにプレセントした病気に対する抵抗力(免疫)は、自然に失われていきます。病気にかかりやすくなる生後6か月頃までに免疫をつけるには、生後2か月頃からの予防接種が大切になります。

この数年間で、乳幼児期に接種するワクチンの種類が大幅に増えまして。感染症自体が社会から少なくなっていくと、副反応等が目立つようになり、「予防接種はしないほうがいいのでは?」という風評が起ります。予防接種には次の2つの目的があります。

①個人を守る

感染予防、感染しても脳炎、髄膜炎等の重症化を予防する。

②社会を守る

ワクチンを接種できる人が接種して、接種できない人(新生児や免疫の低下している患者等)を守る。

以上のように、感染予防だけが目的ではありません。「自然にかかったほうがいい」と誤解されることもあります。ワクチンは、重症化すると後遺症や死亡の危険性の高い病気を予防するために開発されました。自然感染では、免疫の代償として、重症化の恐れがあることを忘れないでください。

また、ワクチンによっては4回接種するもの等、回数が決められています。初めの3回の接種で抗体(病気に対する抵抗力)ができますが、時間の経過とともに低下します。その後、約6か月〜1年空けて追加接種を受けることで、再び抗体ができて、予防効果が高まります。昔は発症者に接することで、知らず知らず追加免疫が得られていましたが、現代では自然感染の追加免疫は期待できません。そのため、決められた回数を受けて、抗体を高めておきましょう。

予防接種は、母子健康手帳に記録されます。お子さんの進学や、将来、海外留学等に参加する際、予防接種の履歴を提出することがあります。その時に接種しようと思っても、1回数千円から一万円ほどする予防接種は経済的にも負担になります。

無料で接種できる期間は限られています。接種忘れのないよう計画的に行いましょう。

(健康福祉課 保健師)



学校コーナー



五霞西小学校

地域の名人の指導でしめ縄づくり

五年生は、一年間米作り学習に取り組んできました。そのまとめとして、十二月二十一日、しめ縄づくりに挑戦しました。

一年間米づくりを教えていただいた鈴木昇氏を講師に、子供たちは藁をたたくところから始め、縄を縛う作業の方法をていねいに教えてもらいました。



数人で力を合わせて縛う子や、なかなか思うようにできず、鈴木さんに手解きをしてもらいながらすすめる子達など、みんな一生懸命に取り組み、なんとかしめ縄を完成させることができました。



このお正月には、子供たちの家々に飾られたことと想います。一年間ありがとうございました。

地域の書家を招いての書き初め会

一月十六日に、地域の書家である、木下カツ江氏を講師にお招きし、書き初め会を開催しました。

授業で毛筆を習っている三年生から六年生が体育館に集まり、それぞれの題字に向かって、真剣な面持ちで取り組みました。

講師の木下先生は、一人一人を見て回りながら、苦手に感じているところがあると、ていねいにアドバイスをくださいました。



子供たちは、それぞれの題字に一年間の目標を重ね合わせながら、ていねいに仕上げました。

今後も、地域の皆様のお力をお借りしながら、明るく健やかな子供たちの育成に努めてまいります。

